

私たちを取り巻く生活環境は、少子高齢化やデジタル技術の急速な発展、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う「新たな日常」への対応など目まぐるしい勢いで変化しています。今後私たちは、一層予測不能な未来を生きていくことになるとも言われています。

少子高齢化や人口減少の影響による経済活動の低迷やコミュニティ活動の希薄化は、地域の存続問題に関わって行くとも思われませんが、持続可能な地域づくりは早急に取り組むべき課題であるといえます。

# 子どもたちの心を育てる

ひとづくりネットワーク運営協議会会長 岡田 章文

第26号

発行  
県の里まちづくり推進協議会  
県主地区自治連合協議会  
県主公民館  
県主地区社会福祉協議会

一方このような中で、自分らしさを大切にし、夢と希望を持ち続け、これからの社会を生き抜くための資質や能力を育む子どもたちが育っていくことは、私たちの大きな望みでありも一つの課題です。

地域の宝である未来を創る子どもたちの健やかな成長を支えるとともに、持続可能な「まちづくり」をしていくことは、私たち大人の責務です。

子どもは無限の可能性を秘めています。

私たち大人は、子どもたちが未来を創造できる人へ

と成長するために、社会的変化を視野に入れつつ、子どもたちにとって必要なことを確実に捉え、伝え育んでいく必要があります。

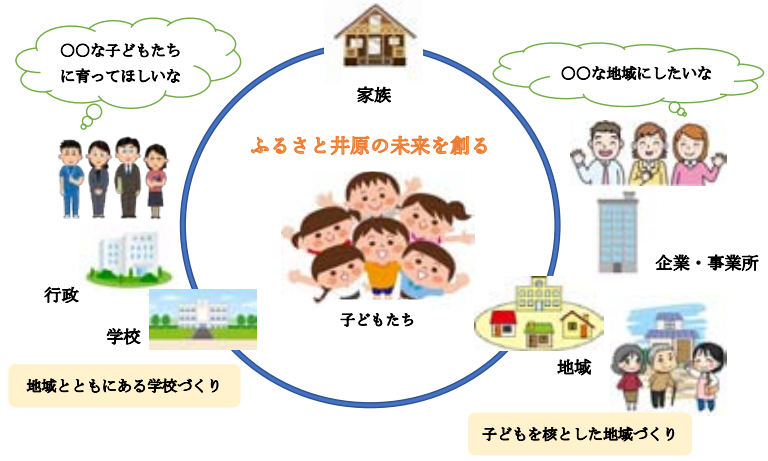
未来を生き抜くためには、与えられる知識・技能・価値観を受け入れて蓄積するだけの受動的な学び方だけではなく、身に付けた知識・技能を駆使して多様な人々と協働しながら課題を克服したり新たな価値観を創り出したりする能動的な生き方が求められます。

子どもたちは、学校、家庭、地域がそれぞれの責任や役割を果たす中で、健やかに育っていきま

す。このため、地域内の各種団体が協力して県主小学校区ひとづくり運営協議会が設立されました。市内の各小中学校区にも同様な組織が設置されています。

未来を創る子供たちのために  
地域全体で連携・協働していくつながり

## ひとづくりネットワーク



「ひとづくり」というと高所で見ているようで何か違和感がありますが、急速な時代の変化に伴い学校・家庭・地域が育てたい子ども像を共有し、協働して「ひとづくり」を進めて行かなければならないと思います。

すべての子どもたちが未来を創造できる「まちづくり・ひとづくり」を実現していきましょう。

# あがたのあいさつ

## 小学生からの発信

昨年、郷土愛を持ち未来を築く「ひとづくり」のために県主小学校区ひとづくりネットワーク運営協議会が発足しました。そして、取組の手始めとして、「あいさつ運動」を展開することになりました。誇りを持てる、住みよい県主とするために、子どもたちから大人まで、誰もが気軽に「あいさつ」ができることが「ひとづくり・まちづくり」の第1歩ではないでしょうか。地域の皆さん、ワンチームでがんばりましょう。



イラスト作成  
 県主小学校  
 5・6年生

県主小学校区ひとづくりネットワーク運営協議会

# 大谷三十三観音巡り

3月21日、34名の参加者を得て恒例の大谷西国三十三観音巡りが開催されました。

午前8時半、金剛福寺境内に集合、佐藤会長が二年ぶりに開催できたことと参加者へのお礼、交流を深めながら巡りましようといわれ、井上ご住職の導師のもと、境内に安置された粉河寺千手観音にお参り、観音巡りの安全と参加者全員の健康を祈願し般若心経を唱え、出発しました。

二番札所の金剛宝寺までは急な山道、元氣よく登り切り大谷山の頂上に到着しました。ここからはほぼ平坦な道ので、お互いに距離をとりながら会話を楽しみながら巡って行きました。途中、朝市が開かれていた櫛の杜で一休み、一番難所

地区社協理事 森本峰子

の急な坂道を足元に気を付けながら慎重に下り岩瀧観音（安産と子宝）へ到着。ここまでの無事を感じながら唱える般若心経が静かな谷間に響き渡りました。

例年だと、小春日和の中、小鳥の声を聴きながら・・・と言いたいところですが、小雨、のちには雨雲が去っていくという天気予報を信じて、雨足が強くなる中、足をふんばりながら一生懸命観音様を巡っていきました。今回は、佐藤好晴自治連合協議会長さんが作成してくださった、大谷山三十三観音すべての名前と唱える念仏の言葉を載せたガイドブックを手に、4歳から小学校5・6年、中学生を含めた参加者は、それぞれの観音様の名前を再確認したり、念仏を唱えたりしま



した。みなさん、疲れも見せず、足どり軽くゴルフ場沿いの観音様に手を合わせながら最後の札所観音正寺を経て六道様へ。今年も、井上ご住職と一緒に巡ってくださり、その上、導師も務めてくださいました。雨も上がり、全員怪我もなく無事に観音巡りを終えた感謝の気持ちを含めて般若心経を唱え解散しました。それぞれの思いを胸に県主の自然にふれながら交流を深めることができ思い出深いものになったと思います。



観音巡り開催に当たり遍路の整備をしていただきました六和会、地区社協の皆様、ご接待をいただきました金剛福寺様、諸準備をいただきました担当者の方々本当にありがとうございます。

# 県主のわだ い



1/12 雪の中でとんど集会



3/19 木之子中学校美術部といっしょにかかし制作



3/13 婦人学級 ゴミ分別講習



3/14 鳥羽踊り子供伝承教室閉講式



2/14 パンジー植え (かかし広場)



3/3 吉仲政江さん 100歳  
(大正10年3月3日生)



ありがとう！ご近所サミットに県主

地区社協会長 佐藤和子

例年、井原市全体で行われている「ありがとう！ボランティア交流会」が、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に中止になりました。そこで、「ありがとう！ご近所サミット in 地域」として、各コミュニティでの開催となりました。県主では、社協のスタッフ・県主地区皆さんの協力のおかげで、63人の方々が参加してくださり、充実した楽しい会になりました。

まず、ご近所福祉クリエイターの酒井保さんに「つながりを切らない！壊さない！〜コロナに負けない地域づくりを考える〜」をテーマにご講演をいただきました。とても楽しい語り口での話に笑いが起こり、あつという間の一時間でした。地域住民が元気で暮ら

していくためには、役割のある社会参加の場が大切で、地域の人と人とのつながりが介護予防にもつながっていくと分かりました。「少々たいぎでもいろんな行事に出るんじやなあ」と思った人が多かったと思います。

また、絵本読みグループ JIの皆さんに「ママ、わたし変わりたいの！」と題して、不登校を乗り越えたある家庭を例にした人形劇を披露していただきました。当事者の気持ちに寄り添い、周囲の人が心の余裕を取り戻して接することが大切だと感じました。

さらに、ボランティア KHグループ代表の三村幸男さんから、西方町に造られた「こもればの杜」での活動について紹介していた

いただきました。引きこもりの人の心の拠り所になり、さらに、就労につながるよう活動を工夫されている場所が、この県主にあることを心強く思いました。

この会を通して、地域の人と人とのつながりの大切さを改めて感じました。そして、「病気や障害があっても、認知症になっても、誰もが何かの役割があり出番がある。」そんな、生涯自分らしく生きがいをもって活躍できる、自分の居場所がある、そんな地域づくりができたらいなと思えました。





県の里まちづくり推進協議会

県の里まちづくり推進協議会のページで「みんなの県主」が閲覧できます。【ホームページ】http://www.agatanosato.jp

県主地区防災会より

非常持ち出し品を備えよう

皆さん非常持ち出し品を備えていますか？

いざという時のために各家庭で3日分以上の食糧など

の備蓄をしましょう。

非常持ち出し品には、一次持ち出しと二次持ち出し品の2区分があります。

★★★★★★★★★★★★★★★★

●一次持ち出し品  
災害時にさっと持ち出して逃げられる必要最低限の防災グッズです。  
●二次持ち出し品  
災害復旧までの数日間を自給するための防災グッズです。

非常持出袋 <1次持出品>

貴重品

- 現金、10円玉（公衆電話用）
- 免許証、保険証のコピー
- 通帳のコピー、印鑑など

避難用具

- 懐中電灯 携帯ラジオ（予備電池）
- ろうそく ヘルメット（防災頭巾）

非常食

- 缶入り乾パンなど（調理不要なもの）
- 飲料水

救急用具

- 救急医療品、常備薬

生活用品

- 衣類（防寒具を含む）
- ライター、マッチ
- ナイフ、缶切り 軍手

その他

- 携帯電話充電器
- 筆記用具
- レジャーシート

女性なら生理用品、乳児がいれば粉ミルクやおむつ、高齢者用の看護用品、予備の眼鏡など必要に応じて準備を。非常食や飲料水は定期的に賞味期限を確かめましょう。

備蓄品 <2次持出品>

食料品や飲料水は3日分

- アルファ米（水やお湯をそそぐだけで食べられます）
  - レトルト食品
  - チョコレート（高カロリーの非常食）など
- ※調理して食べられるものを含めて

生活用品

- 毛布 卓上コンロ 固形燃料
- ラップ（食器に敷いたり、けがの応急処置に） 食器 鍋

水不足対策品

- ウエットティッシュ 水のいらないシャンプー

上記は基本となる備えです。家族構成にあわせてそれぞれ必要なものをそろえましょう。

各種サークル募集

申込先（問合せ先）

県主グラウンドゴルフ同好会

鳥越 勇（☎62-3220）

太極拳同好会

佐藤仁美（☎62-5403）

生花

岡田 忍（☎62-8405）

対龍グラウンドゴルフ同好会

岡田英臣（☎62-4854）

ご寄付ありがとうございます

県主地区社会福祉協議会へ

岡田 洋子様（亡夫）

北田 昌子様（亡夫）

門田楽寿会へ

北田 昌子様（亡夫）

紙面をもってお礼にかえさせていただきます。

編集委員

安藤直樹・岡田 忍（まちづくり）

大池達也（自治連）

山本俊和・森本峰子・鳥越千恵子（社協）

森下和美（公民館）